

頭陀袋(73) 平成三十年七月号

発行 中山かんのん

恩林寺



中山中字下、電話三三四一一四五

別れは必ず来る。

シニアと呼ばれる年になると同年代の知人から、親の訃報を聞く機会が増えます。普段意識していなかつた自分の親の死も次第にリアルに感じられます。突然の死にせよ、長い介護の期間を経た末の往生にせよ親の死ほどショックキングなものはないでしょう。時には疎ましいと思った親であつても自分を生み育ててくれた唯一、無二の存在です亡くなつた直後は葬儀や手続きやらで慌ただしく過ぎ去りますが時がたち、落ち着いて仏壇やお墓の前で手を合わせとき、改めて失つたものの大きさに氣づかされるものです。しばらくの間呆然自失の状態になる人もあります。

いつかは別れの時がやってくる。それは解り切つた事ですが、いざ、その時が来ると向き合うことができない。

それが人の常でしょう。仏陀の根本思想は「諸行無常」です。

この世の中はまどろみの中で見る夢のようなもので、いつまでも続くものではありません。自分の思いに関係なく夢はいつかは覚め、終わりがやつてきます。夢の中で出会つた人はもう、二度と会うことはできません。

ばれた間柄でもその存在は夢の中で出会つた人のようにはかないもの。人の命は突然覚めてしまう夢のように頼りないものです。だからこそ命はかけがえのないもの、いつ絶えるともしれないはかない存在同志、長い間一緒に居られたことが奇跡ではなかつたか。嘆き悲しんでも、なくなつた人が帰つてくることはありません。

つかの間の夢の中で一緒に生きてこられたことを幸せに感じ、これから的人生を大切に生きたいものです。

おせがき法要のお知らせ

恒例のお施餓鬼法要を左記のとおり黄檗宗第十八教区（岐阜県内）の和尚様たちのお手伝いをいただき、勤めさせていただきました。

私たちの祖先、親戚縁者、災害で亡くなつた方々、火難、水難に会われた方々をご供養し、私たちも心の大掃除をする法要です。ぜひとも、お寺にお出かけください。

記

●日時 七月一日（日曜日）

●ところ 恩林寺本堂

●法要後、岐阜市芥見 真聖寺村瀬正光 和尚様の法話があります。

●おとき（昼食）を用意いたしております。

三年以内になくなつた御檀家様の塔婆をお祀りします。信徒様の中でお希望の方がありましたらお知らせください。

準備の都合上、お参りくださる方は六月二十八日ころまでにお寺までお知らせ下さい。